

# 平成31年度学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校定時制の課程)

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと共に学び合う学校
--------	---------------------------------------------

重点目標	1 安心安全な環境の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と自己管理能力を育成する。 2 「わかる授業」を実践し、進路に応じた学力の向上を図る。 3 キャリア教育を実践し、進路希望を実現する。 4 学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 1 月 2 5 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	不登校経験者や外国籍など、多様な生徒が在籍している。一人一人の生徒の社会的な自立をめざし、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、ルールやマナーを尊重し、自他に配慮した生活を送れるよう指導していく必要がある。	中途退学者数を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員間の情報共有</li> <li>家庭との連携</li> <li>SC、SSWとの連携</li> <li>外部諸機関との協力</li> </ul>	中途退学率が減少したか。	残念ながら退学者は昨年に引き続き17名と横ばいになっている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の情報を教員間で把握し、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー等との連携を一層推進し、中途退学の防止に組織的に取り組む。</li> <li>出席率・遅刻率・早退率を教員間で共有し、巡回や声掛けも実施して、生徒の授業参加率を高めるように取り組む。</li> </ul>
		出席状況を改善させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時の声かけ指導</li> <li>校内巡回指導</li> <li>家庭との連携</li> <li>出席状況の推移把握</li> </ul>	出席率が改善したか。	出席率についても昨年同様の数値(88.3%)となっている。	B	
2	落ち着いた学習環境の中、きちんと授業に参加している生徒が大部分であるが、生徒の実態を踏まえた「わかる授業」を実践し、個に応じて、社会人として必要な基礎的な学力を定着させることが必要である。	授業理解度を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員相互の授業見学(年間2回以上)等による授業改善</li> <li>授業アンケートの実施</li> </ul>	「授業が理解できている」という回答率が向上したか。	理解できているという回答は昨年度と同様であるが、外国籍生徒の中には言葉が壁となり理解の格差が広がっている生徒がみられる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の授業理解は向上しているので、その維持に努める必要がある。</li> <li>教員相互の授業見学をさらに活性化させるとともに外部の人材を活用して学校全体の教育力を高めたい。</li> </ul>
		成績不振者数を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導(少人数、習熟度別、TTなど)の実施</li> <li>外部指導者(多文化共生推進員、学習サポーター等)の活用</li> </ul>	各学期の成績状況が、前年度より改善されたか。	成績不振者の数は減少しているが、上位と下位の差が広がっている。	B	
3	4年間をとおして適切で健全な勤労意識や職業観を育成し、進路希望実現に向けた目的意識を培うことで、卒業後の進路決定率を今以上に向上させることが必要である。	進路決定率を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路講演会、ソーシャルスキル講演会等の実施</li> <li>総合的な学習の時間の活用</li> <li>生き方・在り方教育、人権教育の実施</li> <li>就職指導(面接指導等)の充実</li> <li>進学指導(進学補習等)の充実</li> </ul>	進路決定率が向上したか。	就職に関してはほぼ確定している。進学についてはセンター試験受験を終え、私学の入試に備えている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度以上の成果を上げることを目標にし、進路行事・ソーシャルスキル講演会・総学(総探)の時間等を工夫するとともに補習の更なる充実を図る。</li> </ul>
4	「学び直し」「やり直し」の場としての本校の存在意義を説明し、本校のよさをPRするとともに、HP等をとおして最新の学校情報を提供することが必要である。	中学校等との連携を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会、進路相談会等の実施</li> <li>中学校等の訪問</li> <li>学校行事実施後や部活動大会後等のHP更新</li> <li>学校見学者への対応</li> </ul>	中学校訪問等をとおして、本校の情報を適切に提供できたか。	学校見学者が50名を超え、そのすべてが本校受検を希望している。各地域の学習支援センターや中学校との連携も強固なものになってきている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校見学の中学生・保護者のほとんどがHPの充実を口にしてきた。来年度もさらに充実させたい。</li> </ul>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成2年 1月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー等との連携については評価できる。</li> <li>・現状維持もやむを得ないところがあるのではないかと。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍生徒については日本語教育に力を入れていく必要があるのではないかと。</li> <li>・個々のニーズが満たせるよう更に県に働きかけてはどうか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく取組んでいると思う。来年度も引き続きよろしく願いたい。</li> <li>・幅広い進路先に対応している点は評価できる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校見学の生徒が多くなったのは中退防止にもつながるのではないかと。</li> <li>・今後も力を注いでほしい。</li> </ul>	